

柔軟なITインフラの獲得がDX実現への第一歩

DIGITAL
TRANSFORMATION

現在の企業にとって最重要課題の1つとなったDX(デジタルトランスフォーメーション)。

その一環としてクラウドシフトを加速する企業は多いが、一方で様々な課題も浮き彫りになってきた。

クラウドファーストが、必ずしも全体最適につながる解ではないということに気が始めた企業は多い。

そこで有用となるのが“オンプレミス環境をクラウドライクに利用できる”ソリューションだ。

アプリ改修の手間と時間、TCO高騰が新たな課題に

今多くの企業でクラウドファーストが常識になりつつある。しかし実際にクラウド移行を進めた企業では、ITインフラの変化に伴う様々な課題が浮き彫りになってきた。その実態について、企業システムの設計・構築を支援する兼松エレクトロニクス(以下KEL)の杉村陽一氏は、次のように説明する。

「今オンプレミス環境にあるシステムは、開発時のOSやミドルウェア、さらには導入当時のバージョンで作られたもので、それらの要素が自動的に変更されない

前提で作られています。しかしクラウド環境では、OSやミドルウェアを含むサービス仕様が常にアップデートされていくため、システム自体もそのアーキテクチャに合わせての改修が必要となり、そのためには相当な労力と時間を要します。一方で、従来のオンプレミス環境のままではインフラ運用管理の負担が大きいため、今多くのお客様で悩みの種となっている課題です」

またクラウドでは、ITコストを経費化できる半面、利用した分だけコストがかかるという特徴がある。

「利用した分だけのコストというオンデマンド性はクラウドの大きな利点ですが、その恩恵を受けられないシステムもあります。

特に24時間365日の稼働が求められる基幹システムの場合、お客様からよくお聞きするのが“パブリッククラウド上で運用しようとするTCOが高くなってしまふ”という状況です。全てのシステムがクラウドにフィットするわけではない、という点を改めて考える節目に来ていると思います」(杉村氏)

データセンターを仮想化しクラウドライクに利用

クラウド移行の問題点が見えてきた現在、各課題を解決するソリューションがVMwareから提供されている。それがユーザー企業のデータセンター全体を仮想化して利用可能にするVMware Cloud Foundation™(VCF)だ。ガイエムウェアの南勇貴氏は、VCFについて次のように説明する。

「VCFは、サーバー/ストレージ/ネットワークの各構成要素を全て仮想化し、統合的に管理、運用することを可能にするソリューションです。ガイエムウェアではSoftware Defined Data Center(SDDC)というコンセプトに基づいてVCFをご提供しており、VCFをご利用いただくことで、オンプレミス環境のデータセンターを“クラウドライク”に使うことが可能となります」

VCFを導入してSDDC化を実現すれば、オンプレミス環境にあるITインフラの柔軟性や運用性、スケールアウト性は格段に向上させることができる。このときに重要な役割を果たすのが、ITインフラのライフサイクル全体を自動管理するSDDC Managerというツールだ。

またAWSや Azure といったパブリッククラウドサービスでも、既にVCFアーキテクチャにのっとった環境が構築/提供されているので、それらを採用すればユーザー企業はVCFベースのクラウド環境もすぐに利用開始することができる。

「つまりオンプレミスとクラウドのITインフラを同じVCFアーキテクチャで構築できるということで、これによってお客様は自社のハイブリッドクラウド環境をシームレスに管理、運用することも可能になります。その意味でVCFは、あらゆるITインフラの管理と運用を一元的にご支援するソリューションだといえます」(南氏)

ガイエムウェアでは、モダンアプリケーションを構築、実行、管理するための統合プラットフォームであるVMware Tanzuも提供することで、ユーザー企業のコンテナおよびKubernetesを利用したアプリケーション開発を支援している。

VCFに最適化されたHCIアプライアンスも登場

現在ではVCFを搭載したHCIアプライアンスも提供されている。デル・テクノロジーがガイエムウェアと共同開発したVxRailだ。デル・テクノロジーの生田真也氏は、VxRailについて次のように紹介する。

「VxRailは、VMwareの製品ロードマップにのっとって開発した製品で、VCFをはじめとするVMware製品との親和性が非常に高いHCIアプライアンスです。



デル・テクノロジー株式会社
SPS事業本部クラウドソリューション部
シニアシステムエンジニア 生田真也氏



デル・テクノロジー株式会社
パートナーSE部
パートナーシステムエンジニア 近藤正樹氏

デル・テクノロジーではVCF搭載のVxRailをVMware Cloud Foundation on VxRail(VCF on VxRail)として提供しています」

デル・テクノロジーではVxRail Managerという管理ツールを提供することで、VxRailのライフサイクルを自動管理できるようにしているが、生田氏はVCF on VxRailの大きな特徴として、VxRail ManagerとSDDC Managerの連携による効果を挙げる。

「両者の連携により、例えばSDDC Managerの管理画面からVxRailの各種ファームウェアやNICのドライバーのライフサイクルも含め一元的に管理することが可能になります。オンプレミス環境をクラウドライクに利用する際の運用負荷を低減できるという点も、VCF on VxRailの特筆すべき特徴だといえます」(生田氏)

さらにデル・テクノロジーでは、VMware製品からVxRailまでを一気通貫でサポートしているが、この点についてデル・テクノロジーの近藤正樹氏は次のように説明する。

「VCF on VxRailはVxRail同様VMware社と共同開発された製品となり、サポートの部分でも協業しています。VCFと他社サーバーを組み合わせる場合に比べて、万一の障害発生時

の原因究明や復旧作業もより迅速に対応させていただくことができます。お客様の大きな安心感につながるものだと思います」

一方KELでは“そもそもIT資産を抱えたくない”“運用もアウトソーシングしたい”という企業ニーズに対応するために、ITインフラと運用サービスを一括して提供するフルマネージドサービスを提供している。それがKEL Custom Cloudだ。

「KEL Custom Cloudは、お客様が必要とするITインフラをKELが資産を所有し、運用保守も含めてご提供するサービスです。KEL Custom Cloudをご利用いただくことで“クラウドライク”に使えるオンプレミスのITインフラを自社で保有する必要もなくなります」(杉村氏)

KELでは2020年8月、ITインフラの運用から監視、保守までをワンストップサービスとしてリモートで提供するKEL Remote Service Center(KRSC)を開設した。このKRSCが一括窓口となって、KEL Custom Cloudの運用監視を行っていく。

「私たちは、柔軟なITインフラの獲得こそが、DX実現のための第一歩だと考えています。そのためのソリューションがVCFであり、VCF on VxRailであり、私たちのKEL Custom Cloudです。この機会にクラウドライクなオンプレミスソリューションをご検討いただければ幸いです」(杉村氏)



兼松エレクトロニクス株式会社
システム本部
西日本システム部 第一課
課長 杉村陽一氏



ガイエムウェア株式会社
パートナーSE本部
パートナー第二SE部
パートナーソリューションアーキテクト 南勇貴氏